

琵琶湖河川事務所では、野洲川とのふれ合いを通じて、野洲川への関心を高めるため、地域連携を進めています。

今回、野洲川河口部において、地元中学校（立命館守山中学校サイテック部）と連携し、ヨシ帯再生事業のモニタリング調査を実施しました。タモ網を使用する「魚類調査」を実施した結果、フナ（コイ科）の子魚が採集でき、生育環境の再生が確認できました。

なお、Eポートを利用した「ヨシ帯再生状況の確認」の予定でしたが、強風のため中止とし、高水敷よりヨシ帯の再生状況を確認、過年度からの取り組みを紹介するとともに、河川内に増加するヤナギについて説明を行い、高温水をかけて枯らす実験を行いました。中学生からは、「もっと魚類調査をしたい」、「自らヤナギを引き抜きたい」などのコメントがあり、野洲川に興味を持っていただけたと感じています。

琵琶湖河川事務所では、今後も様々な活動を通じ、地域との連携を深めていきます。

＜概要＞

- 実施日：令和6年5月16日（木）
- 実施場所：野洲川河口部右岸
- 参加者：立命館守山中学校サイテック部
生徒 18名、教員 2名
河川レンジャー 1名
河川環境保全モニター 1名
守山市 1名
野洲川フィールドワーク学生 1名
琵琶湖河川事務所職員 他 8名

- 内容：①安全講習
②魚類調査
③ヨシ帯再生状況の確認（高水敷より）
④ヤナギの高温水による実験

○位置図



＜現地調査した生徒たち・教員からの感想＞

【生徒たち】

- ・野洲川では草の中でとると、何もないととると、とれる魚の量が全然違った。ブラックバスをはじめてみたので、意外と大きくてびっくりしました。
- ・川にペットボトルや弁当箱が落ちていて綺麗に保てるようにはどうするべきか考えようと思った。下流より上流の方が生き物が多くいた。
- ・前年よりも獲れた魚の量が少なかったけど、木の枯れさせ方や生き物の取り方がわかって楽しかったです。
- ・魚が人がすてたゴミに卵を産んでいた。魚がヨシ帯と間違えていたならこれは改善する必要があるのかなと思いました。
- ・ヨシを守るための取り組みが面白みがあった。

【教員】

- ・1年生は、中学校に入学してから部活動として初めての校外活動で、身近な野洲川で実際に生き物と触れ合うことができ、これからの興味・関心につなげることができたと思います。
- ・実際に見て、触れて、感じたことは生徒にとって素晴らしい経験となったと思います。生徒たちも、学校内では経験できないことに目を輝かせており、生物に興味があること、ヤナギを枯らすための対照実験を通して実験・研究に興味を持ったことなど、生徒の興味関心を伸ばしていかなければならないと感じました。

